

## RCNP 研究会報告 2017/1/20

研究会タイトル：The 14th International Conference on Meson-Nucleon Physics  
and the Structure of the Nucleon

開催日程：2016年7月25日-31日

開催場所：京都大学百周年時計台記念館

世話人：組織委員

延與秀人 (Chair、理研仁科)、成木恵 (vice-Chair、京都大学)、  
後藤雄二 (理研仁科)、保坂淳 (大阪大学 RCNP) 石井理修 (大阪大学 RCNP)  
中野健一 (東京工業大学)、新山雅之 (京都大学)  
大西宏明 (理研仁科、大阪大学 RCNP) 佐藤透 (大阪大学) 四日市悟 (理研仁科)

国際助言委員：

Mauro Anselmino (INFN-Torino)、David Armstrong (William & Mary)、  
Nora Brambilla (TU-Munich)、Stanley J. Brodsky (SLAC, Stanford)、  
Volker Burkert (JLab) 他、計30名

主催：MENU2016 組織委員会

共催：理化学研究所仁科加速器研究センター、大阪大学核物理研究センター

### 会議概要

この国際会議は、1983年に第一回が Karlsruhe (Germany) で開催されて以来、世界各国持ち回りでほぼ3年おきに開催され、今回、2016年7月25日から第14回を日本/京都大学において行いました。20カ国より142名の参加者があり、うち国外参加者は76名、参加地域の内訳は、アジア95名、ヨーロッパ32名、北南米から15名でした。

本会議の特徴は、中間子-核子相互作用、ハドロン分光学を始め、核子構造、基本対称性の物理に至るまで、ハドロン物理およびその周辺の課題を広く集める総合的な国際会議であるという点です。そのため、プログラムとしては、個々トピックスに対する最新の結果を含めたプレナリ講演 (招待講演) が29件、及びパラレル講演80件 (招待11件含む)、全109件の比較的講演数の多い会議となりました。

特に議論が行われたトピックスとしては、

- 1) 一昨年、LHC/LHCb 実験において発見されたペンタクォークに関する実験結果レ

ビューやその理論的な解釈の報告

- 2) Belle/BESIII などコライダー実験によるエキゾチック粒子発見、及び理論的解釈
- 3) ハドロン原子核束縛実験の最新結果 (COSY での  $\eta$  原子核束縛、J-PARC での K-pp 束縛状態)
- 4) 核子構造関数に関する最新結果
- 5) 将来計画に関する報告 (CLAS12/BelleII/EIC/PANDA/J-PARC)

などをあげることができます。このほかにも国内外の実験施設からの最新結果や新展開の可能性なども議論されました。

会議で発表された研究成果は、今年度末に JPS Conference Proceedings に発表されます。また、次回の国際会議 MENU は、3 年後の 2019 年にアメリカのピッツバーグで開催されることが決まりました。

#### 予算執行状況

RCNP に予算 61.2 万円を申請し、60 万円を認めていただきました。そのうち、国内若手研究者の旅費／滞在費の補助及び外国人若手研究者の国内旅費滞在費の補助として総額 469,250 円を執行いたしました。

全体写真：



# 講演風景

